現代バリ社会における部落への帰属/非帰属をめぐる内部対立の過程と要因

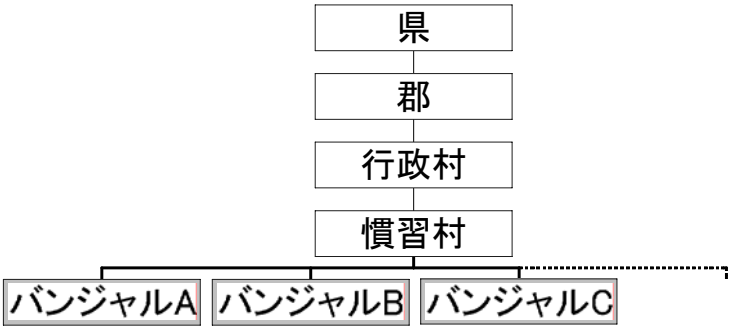
小池 まり子（博士後期課程）

派遣先：インドネシア国立ウダヤナ大学
（2007.12.17-2008.2.29）

本研究の目的

- バンジャルの内部対立の要因、経緯、解決の方法を明らかにする
  →今回の事前調査
- バンジャルの成員であることの意味の問い直し
  →今後の課題

バリ州の行政／慣習機構

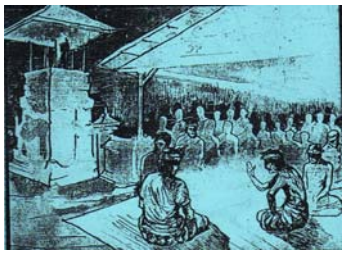


バンジャル Banjar

- 集落・部落→居住単位
- 日常の相互扶助、共同作業を行う
- 行政／慣習の領域
  - 行政長：行政を担当
  - 慣習長：宗教的慣行を担当
    - クラマ・バンジャル(寄合）

クラマ・バンジャル Krama Banjar

- バンジャル内の各戸長からなる寄合
- 成人男性のみで結婚後に加入
- 35日毎に集会場で定期会合を行う
- 宗教儀礼、共同作業、相互扶助活動の通達
- 独自の慣習法を持つ



クラマ・バンジャルの重要性

- ギアツ, C. 『ヌガラ』
  - クラマ・バンジャルは部落に関するあらゆる問題についての主権者であり、その権威に執拗に逆らう者は、どんなに些細にみえる事柄についても追放処分とされた. 今日でもバリの人々がクラマを去るのは甘んじて死を待つに等しいというのも不思議ではない.

[小泉 1990, p.57]

追放処分になると・・・

- 葬儀時に、バンジャルの成員による相互扶助を得られない
- 墓地の使用権の剥奪

- どこで葬儀を行うか？
- 火葬、浄化儀礼を行い、「祖霊」として迎えることができなくなる

頻発する内部対立

- 墓場の使用権をめぐって表面化
  - 家への投石
  - バイク・自動車の破壊

- 県と国家警察が仲裁

派遣先での研究内容

①バリ語の習得

②研究テーマに関する指導

③地元新聞社における報道記事収集

④参考文献収集

⑤長期調査のための調査地の選定

バリ語の習得

- 全50回のバリ語の講義
  - 日常生活で使用頻度の高い会話文
  - バリの慣習、宗教儀礼に関する文章をもとに文法、発音、読解、作文を行った
- 成果
  - 日常生活を行うにあたり支障のない程度
  - 儀礼の参与観察で、儀礼の進行を把握できるようになった

研究テーマに関する指導

- バンジャルの基本的情報
  - 先行研究、参与観察で得た知識を再構成できた
- バンジャル内部対立
  - 特定の地域名をあげて内部対立を把握
  - 内部対立が起こった具体的な時期が不明

地元新聞社における報道記事収集

- 地元新聞社バリ・ポスト
  - ウダヤナ大学教授の指導を参考にして過去の記事にあたった
  - 時期が不確定なため収集に結びつかない
  - 記事はデジタルカメラで撮影し、画像データとしてパソコンで保存管理を行った

参考文献収集

- バンジャル及び内部対立関連文献(3冊)
- 慣習法関連文献(2冊)
- バリ＝ヒンドゥー宗教関連文献及び雑誌（4冊）
- ウダヤナ大学大学院文化研究の機関誌（8冊）

長期調査のための調査地の選定

- 例え内部対立が過去の話であったとしても、内部対立を経験した当事者本人にとっては、センシティブな問題であり続けている

↓

調査地の選定は見送り

今後の課題

- 調査地の選定
- 調査方法の検討
- 継続したバリ語の学習
  - 現地調査での実践的な活用へ
  - 慣習法を読解できる程度まで上達